

気管支拡張症と肺NTM症 ～診断・治療の実践的アプローチと 最新エビデンス～

座長

露口 一成 先生

独立行政法人国立病院機構近畿中央呼吸器センター
臨床研究センター感染症研究部 部長

演者

福島 清春 先生

大阪大学大学院医学系研究科呼吸器・免疫内科学 助教

日 時

2025年6月19日(木) 19:00～20:00

本Webセミナーは追いかけて再生に対応しております。
Webセミナー終了前までに視聴を開始されると、追いかけて再生による視聴が可能です。

視聴方法

詳しくは裏面をご確認ください。

気管支 **拡張症** navi (気管支拡張症に関する医療従事者向け情報サイト) <https://www.benavi.jp/>



主催：インスメッド合同会社メディカルアフェアーズ部

気管支拡張症と肺NTM症 ～診断・治療の実践的アプローチと最新エビデンス～

気管支拡張症と肺NTM症は世界的に患者数が増加しており、診断・治療における進歩も著しい。しかしながら、両疾患は多くの症例において“気管支拡張”という共通の特徴を有するため、実地臨床においては明確な方針の下で区別して診療をおこなうことは難しい場合も多い。気管支拡張症は、“慢性的な呼吸器症状”と“画像検査で確認された気管支拡張像”により定義される症候群であり、非嚢胞性線維症の気管支拡張症は診断の難しさ、治療法の乏しさから顧みられず、長らく“neglected disease”とされてきた。近年、特に高齢女性での患者増加、CTの普及による診断増加のため注目を集めており、ヨーロッパにおけるEMBARC、米国におけるUSBRRなどの大規模なregistryが設立された。また国際的なガイドラインも策定され、呼吸器疾患の主要なカテゴリーとして位置づけられるようになった。一方、肺NTM症についても気候条件、高齢化、生活習慣、遺伝的要因により日本は世界の中でも発生率と有病率が高く、関心が高い。気管支拡張症の本邦における疫学的な理解は未だ不十分であるが、有病率は肺NTM症同様に高いと考えられる。しかしながら、低い疾患認知のために“気管支拡張症”としてのアプローチではなく、“肺NTM症疑い”として長期にわたって漫然と経過を見られている場合も多い。本講演では気管支拡張症について、診断・治療の実際を踏まえながら疫学・病態・診断・治療についてエビデンスを紹介する。特に気管支拡張症と肺NTM症の関連や、両疾患における好中球性炎症の関与などについても最近の知見を紹介する。

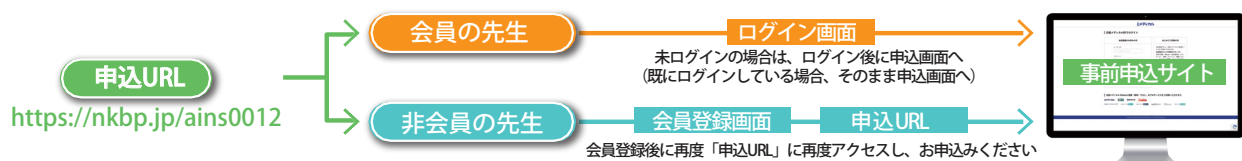
ご視聴方法

本Web講演会は「日経メディカルOnline」でご視聴いただけます（登録・視聴無料）

申込URL <https://nkb.jp/ains012>

ログイン（会員登録）後、上記のURL から事前視聴のご予約をお願いいたします。

※お申込みは 6月5日（木）10時から可能です。
※事前にご予約いただかないと視聴できませんのでご注意ください。
※会員登録に時間がかかる場合がございますので、開催の1週間前を目安にご登録をお願いいたします。
※ご視聴は医師会員に限定させていただいております。



日経メディカル Online会員以外の先生はこちらでご視聴ください

1 下記までご連絡ください。

satoru.aizawa@insmed.comまでメールにて開催日前日までにご連絡をお願いします。その後、視聴URL, ID, Passwordをご連絡させていただきます。

2 Web講演会の本番視聴



- 1 視聴URLにアクセスします。
- 2 情報入力を行い「視聴する」ボタンを押下してください。
- 3 視聴画面の「再生」ボタンをクリックします。

補足: 事前視聴確認 Web講演会の前日までに、当日と同じ視聴環境で必ず事前視聴確認を行ってください。

情報入力ページにアクセスし「視聴環境確認」をクリックしてください。速度チェック及び視聴チェックを実施し、不具合がないかご確認ください。